



菜園活動記録

川崎市高次脳機能障害地域活動支援センター

2021年11月～2022年7月

旧菜園から今の菜園に移転して、すでに1年9か月以上が経過しました。季節も間もなく二巡目を終え、参加者の顔ぶれも変わりましたが、皆さんで協力しながら、楽しく毎週木曜日午後の菜園活動に勤しんでいます。今回はその作業内容の一部をご紹介します。



その日の作業予定は、午前中のセンターでの打ち合わせで決めておきます。菜園に到着後、一休みするとすぐに収穫、間引き、草取りなど、各自の役割に応じて、テキパキと作業を開始します。



土起こしや畝立ては、体力が要りますし、コツや経験も必要な作業。土を耕すというダイナミックな動きは、畑仕事をしているなあ、という実感が得られます。



種蒔き(4点蒔き)の様子。一株が大きくなる果菜類や根菜類は点蒔き、葉菜類や小さな根菜類はすじ蒔きに分けて蒔きます。粒の小さな種は扱いが難しく、手からこぼれ落ちたり、時には風に飛ばされたものが、畝の外側で発芽していたりします。



種蒔き後の水やりの様子。水はやりすぎても足りなくてもいけません。何度も水汲みのために水場と区画の往復をするのは大変ですので、撒く量の配分が難しく、腕の見せ所でもあります。



追肥の様子。継続して収穫するためには、追肥が欠かせません。油かす、鶏糞、牛糞を適切な割合で配合しなければならないので、神経を使います。今年から鶏糞、牛糞が腐葉土に変更になりました。

作成:ふみを